

審査の結果の要旨

氏名 寶 心浩

経済発展にともなって高等教育進学率が飛躍的に上昇している中国では、地域的な高等教育機会の格差の拡大が大きな問題となっている。高等教育の大衆化の半面で進学機会の均等性はどのように変化してきたのか、その変化はどのように説明できるのか、そしてそうした変化はどのような要因によってもたらされてきたのか。本論文はそうした問題に、地域（省）別の進学率を分析することによって実証的に答えようとするものである。

論文は全部で九つの章からなっている。序章では関連する既存研究を概観し、本論文の課題を設定している。第1章では分析の基礎として、地域間の大学進学率の均等性を計測する指標としてジニ係数などの理論的特性を検討し、標準偏差が最も適当であることを論証したうえで、1992年から2001年の高等教育拡大期において不均等性が増大したことを示している。続く第2章では1992年時点での高等教育機会の均等性を、大学の収容力の分布と、その全国的再配分の二つの要因にわけて分析した。さらに第3章では、1991年と2002年の地域別進学率の決定構造を比較したうえで、全国的再配分の機能には大きな変化がないものの、高い経済発展を遂げた省が公立大学を多く設置する政策をとったために、収容力の分布が変化し、これが結果として大学進学機会の不均等化をもたらしたことを示した。

第5-7章は上述の変化をもたらした社会的・政治的要因を分析している。第5章では中央政府の公文書等をもとに、社会主義の基本としての均等性への志向と、市場化にともなう地方分権化の志向との間で政策が揺れ動いてきたことを示した。さらに第6章ではいくつかの省でのケーススタディをもとに地方政府が、なぜ、またどのような形で自省出身者の進学率を拡大させてきたかを分析し、また第7章では大学がこうした中でどのような行動を行っているかを分析している。終章はこうした分析のまとめと、日本との比較、そして将来の分析課題にあてられている。

こうした分析の結果、本研究は1992年から2001年の間に進学機会の地域的な分布は不均等化したこと、その主な原因は市場経済下において地域間の経済水準の格差が増大し、それが大学の収容能力の格差をもたらしたことにあること、そして政治的にみれば中央政府は地域間の均等性への志向を捨てたわけではないとしても、地方分権化によって不均等化の進行を拒むことができないこと、を示すものである。とくに後半の社会的・政治的要因の分析に体系性を欠く部分があることが指摘されたが、公表された統計資料の少ない中国の高等教育機会について、理論的な基礎を明確にしたうえで、体系的な分析をおこなった点は高く評価された。このような観点から博士（教育学）の論文として十分な水準に達しているものと認められる。